

中国湖南省の調査報告 — 新化县における祭祀儀礼 —

李利 (Li Li) ※・三村宜敬※

はじめに

2007年8月28日から9月2日にかけて、神奈川大学メディア教材制作プロジェクトが実施された。このプロジェクトは湖南省新化县の中の三つの鎮である水車鎮・洋溪鎮・維山鎮を取材地とし、農村の観光・子供・水をテーマにビデオ撮影と取材を行うものである。廣田律子先生がコーディネーターとなり、泉水英計先生も引率し、経営学部、理学部そして歴史民俗資料学研究所から筆者ら、計11名の学生が参加し実施された。

本報告は今回のプロジェクトで取材した祭りを中心とし報告するものである。

1、調査地の概況

湖南省は中国の長江中下流に位置し、洞庭湖の南に広がる。北部は洞庭湖平野、中部は丘陵地帯、南部は山岳地帯となっている。湿度が高く、雨が多い。また、夏季の気温が高く、四季ははっきりしている。中国最大の米の産地としても知られている。

今回の調査地である新化县の三ヶ所の鎮は湖南省の中央部よりやや西に位置し、梅山地区と称され、梅山教の中心地とされる。いずれも山に囲まれ、川に巡り流れる地だ。

※神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究所博士
後期課程

※神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究所博士
前期課程

漢民族のほか、ミャオ族（苗族）、ヤオ族（瑶族）などの少数民族が住んでいる。水稲生産も盛んで、蜜柑、梅、梨、ブドウなどの果樹もよく見られる。調査中はほぼ最高気温四十度近くという厳しい残暑の中での取材活動は大変なものであった。

2、食について

日本では辛い中華料理と言えば「四川料理」と思われる方も多いと思うが、中国では俗に「四川人不怕辣、湖南人怕不辣。（四川人は辛いのを恐れず、湖南人は辛くないことを恐れる。）」と言われる。

新化县のレストランでは、ほとんどの料理に唐辛子が使われており、「唐辛子を抜いて！ほんのわずかにして！」と言って、料理を注文しても、出てきたものを食べると、まだまだ辛く感じた。まだ地元の方から「辛くないとおしくないよ」そんな言葉を聞く度に、湖南の人たちの「辛さ」への拘りを感じている。

今回の訪問は残念ながら、食の習俗について当地民のお話しはほんのわずかで、ここで思い出しながら紹介したいと思う。洋溪鎮の21歳羅氏に話しをうかがえたのはたいへん幸せであった。彼女は二十歳で結婚して、一年後に妊娠し、現在妊娠九ヶ月である。羅氏によると、普段はどんな料理するときも唐辛子や唐辛子の加工品を入れる。

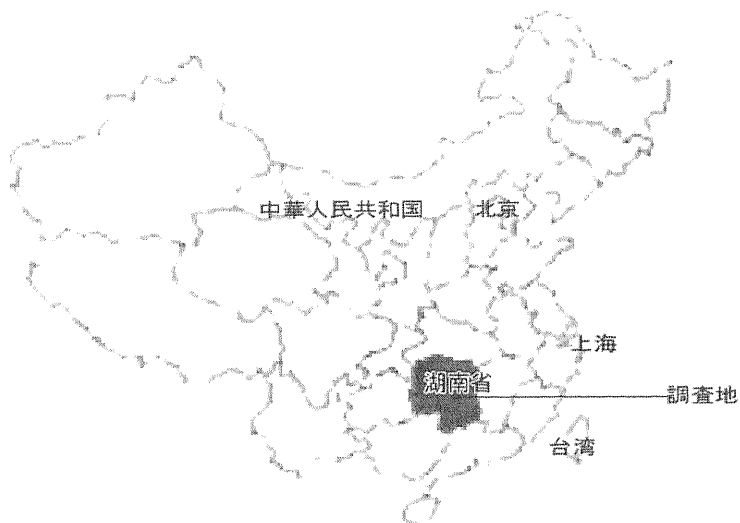


図1 地図

辛みがなければ料理が美味しくない。また、地元は一年中湿度が高いので、風土病などを防ぐために使う面がある。どの家も唐辛子を栽培している。唐辛子は中医からといえは除湿の作用を持っている。味の面だけでなく医学的な面でも重用視されているとみられる。

妊娠中は、野菜をたくさん食べたほうがよい。辛いもの（主に唐辛子である）を食べてはいけない。ミカンもできるだけ食べない。モモ、ライチ、ナスは食べていけない。なぜなら、これらの食べ物は、のぼせ、炎症などの症状を引き起こす病因と考えられ、胎児の皮膚に影響があるとされるからである。以上のような妊娠中の食に関する禁忌があるからとされる。

出産してから一ヶ月、つまり褥産期には、米酒（甘酒）をよく飲み、豚の胃袋で作った料理をよく食べ、また魚、鶏もよく食べるとされる。これらの主な理由には乳の出

を早め、またはよく出るようにすることである。

これらの慣習は長時間にわたって形成されたもので、生活の知恵を得て伝承されてきたものであるとみられる。

水車鎮においてどこの家にも二つあるいは三つのカマドの口がある。小さいから大きい口に並んでいて、水牛の角のような形をしている。



写真1：カマド

祭りには供え物が欠かせない。餅、果物、市販のお菓子、乾果、飴類などの供え物がみられる。儀礼の後、皆に配って食べる慣習がある。地元の方に「何故皆に配るか」と尋ねると、「吃供的東西好（供えものをたべると縁起がいいよ）」という。この習慣は中国の北方でもみられる。29日の祭りで、

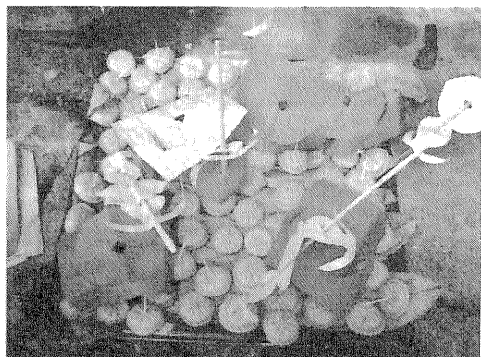


写真2： お供える餅

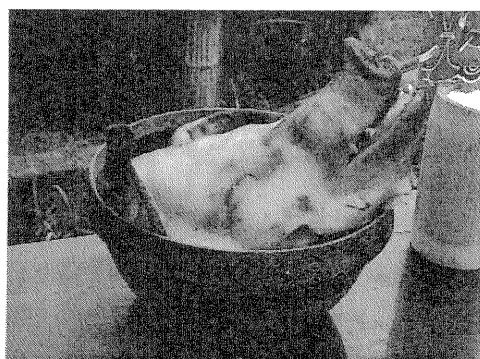


写真4： 供えるブタの頭

注目したいのは供物として餅のうえに赤い紙でつくった蚩尤を模ったとされる飾りがのせられていたことだ。梅山地方の先住民は蚩尤の後裔というの伝説がある。

30日の祭りが終わると、供物のブタの頭で（写真4）つくった料理（写真5）を昼飯の一品としても頂いた。



写真3： 皆にお供えた餅を配る風景

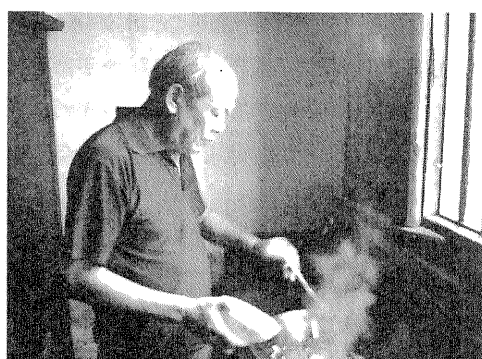


写真5： 供物のブタの頭で料理につくっているおじさん

3、家内の祭祀施設について

水車鎮の羅氏の家に訪れた。入口の正面の壁には祖先や観音等を祀る上段と土地神を祀る下段のある神龕（神棚）があり、いずれも香炉が置かれ、お酒、供物などが供えられている。神龕の上部の中央には、横

に「先祖□芳」、壁縦には「天地国親師」、両側には「我其夙夜□□」「神憑依在徳」の字が書かれ、下部の中央には、「福德堂」、両側には「地内産黄金」「土中生白玉」の字が書かれていた。



写真6：神龕（上段）



写真7：神龕（下段）

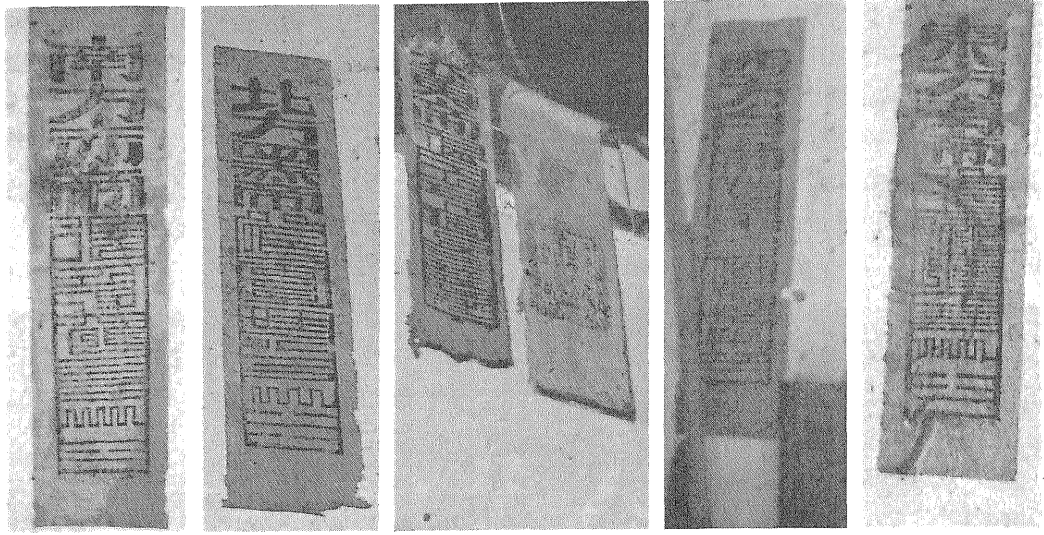


写真8～12：五方護符（南北中西東）

水車鎮で羅氏の家に入れていただいた。入口正面の部屋の四面壁と中央の壁には「南方赤帝□□」「北方白帝□□」「黄帝□□」「西方白帝□□」「東方青帝□□」（写真8～12）を赤い紙に漢字とマジカルな符号で書かれた護符を貼っている。うちの安全を守るということである。五方の神様の存在を信じているとみられる。

新化県では梅山教を信仰するところである。梅山教は道教の思想に強く影響をうけた民間宗教である。八卦を殆どどの儀礼で使われていた。

三ヶ所の祭りで祭壇の下に置かれる逆立つ像が見られた。「梅山神張五郎」という名の逆立つ像（写真13、14）である。梅山の地区には、梅山神張五郎に関する伝説が広く伝わっている。

「昔々、梅山の地区に住んでいる張五郎という青年がいた。彼はこの地域が常に疫病、洪水、毒蛇猛獣に襲われることがあり、苦しい生活をおくっている人々を解放するために、古洲の向太上老君へ方術を学びに行くが、直接方術を教えたくない太上老君は幾つか難題を張五郎に出した。張五郎は太上老君の娘である姫々から教えられた方術でこの難題を解決し、太上老君の難題を一つづつ方術で破った。先進技術を持って、優れて勇敢である英雄になった彼は姫々に愛された。（太上老君は張五郎に姫々の仲を引き裂こうとしたが、）姫々の力で張五郎と一緒に太上老君から逃げて梅山に戻ってきて、夫妻になった。張五郎は、姫々が太上老君から学んだ方術を受けられ、梅山の首領になった。張五郎の方術が段々と精通し、

彼の人気も上がってきた。だが、彼に時々いじめられていた姫々は、張五郎が「逆立」という修業するとき、彼の身体を動けないようにする方術を施して、張五郎の両手は地を支え、両脚は天に向かっている逆立ち状態にした。彼は苦しく、姫々に詫びた。そして“私、張五郎は今後あなたをいじめません。(もしいじめたならば) 毒蛇猛獣が(私を殺そうと) 嘯まなくても、すぐに銃によって殺される。”と誓う。姫々は彼の誓願を聞き彼を信じ、彼の術を解いた。しかし、暫くして姫々をもっと苛めることをしたため、耐えなくなった姫々は、首を吊って自

殺した。後に、張五郎は彼の誓言通り銃で殺された。梅山地区の人々は梅山を開発する大きな功労を成した張五郎を記念するために、彼に像を作って、梅山神として祀るようになった。ただ、姫々の誓いを背いたから、張五郎の像は、逆立つことで梅山の神として靈験を現すことができる。」(中国第四届梅山文学芸術検討会・首届梅山旅遊文化芸術節組委會「中国第四届梅山文学芸術検討会論文集」2006 P33)

調査取材地である新化県では張五郎という民間信仰の一例であるが、種々な神を崇拜しているとみられる。



写真13：梅山神張五郎像



写真14：梅山神張五郎像

4. 祭祀・儀礼

水車鎮

2007/8/29

水車鎮の祭りが行われた場所は、村の中心部から山ぞいに入った所で行われた。

この場所の特徴的なものは、御神木である(写真15)。

御神木の枝には赤い布が垂れ下がっている。この布は、村で子供が産まれると、その子の生辰八字(生年月日と時刻)を書い

て御神木に結ぶという習俗が残っている。そのためかこの村では何人も大学に進学する者がでていそうである。このような習

俗は日本でも見られ、岩手県遠野市の卯子西神社では、参拝者が赤い布に願い事を書いて祠の周囲に結んでいる。



写真15 御神木

祭りはこの御神木の下に祭壇を設けて行う。祭壇の前には天幕があり、その文様は中心部に八卦の図が描かれている (写真16)。

祭りはおよそ7人の宗教者が行っていた。この地方の宗教者は道教に強く影響を受けた「梅山教」とよばれるものである。

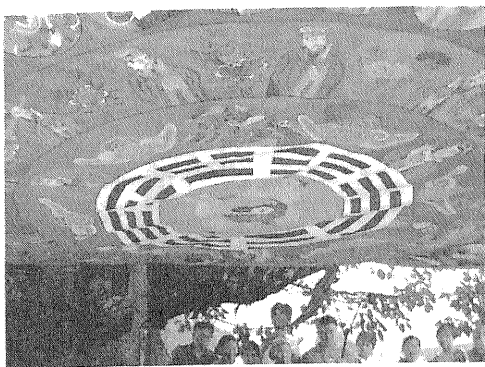


写真16 天幕

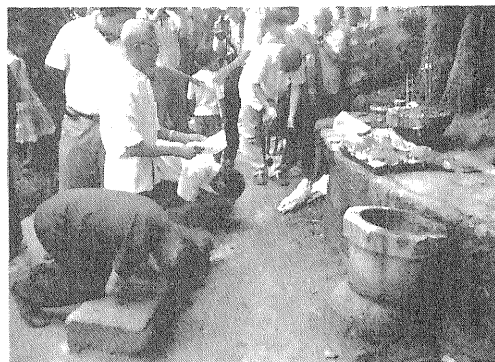


写真17 御神木に向かって拝礼

演目としては、武術的なもの、音楽との掛け合い、儀礼（開山）、獅子舞などが行われていた。

この祭りの流れとしては、まず御神木の裏側に石製の祭壇があり、そこで祭文が詠まれた。これは御神木の表側にある、この祭りのために設置された祭壇とは違い常設されているものようであった。その際に2人の村人が祭文を詠んでいる間うずくま

る姿勢で祈っていた（写真17）。その後、神前に供えられていた餅（米粉を固めて蒸したようなもの）がふるまわれた。

それから、天幕のある祭壇の前で祭りの演目が始まったのである。祭壇の前の広場には中央に大型の箕が置かれ、その中には、祭りに使うお面や角笛などが入れられている。まず宗教者たちはこのザルの周囲に集まり、何やら歓談してから演目は始められ

る。この箕の中央を4人が回りながら武術的な動きをする。それは儀礼のようでもあり、衆人を楽しませる演舞のようでもある。

この祭りもたけなわになると、一体の斧をかついだ鬼神が登場した。その名は「開山^{かいざん}」という（写真19）。開山は中国南部では言祝ぎをする鬼神であり、祭りの邪魔をする悪鬼を祓い清める役割がある。



写真18 儀礼の始まり



写真19 開山

開山は自らの身を清める動作を地面ではなく、机の上で行う。地面の上で直接行わないこの儀礼は、演出的なものなのか「清浄な場所」を意味しているのか考察の余地があるだろう。水車鎮の開山は、他の地域と比べひどくコミカルな様子であるという。

その理由と言うのが、開山は身を清めた後、周囲に向かって小便、大便をする。もちろん演出なのだが、小道具を用いたり、冥銭で尻をふき、その紙を撒いている動きは周囲の笑いを誘っていた。この開山が終わって後は二匹の獅子が最終的に子を産んで三匹になるという演出付きの獅子舞がおこなわれたのだが、天気の変で一時祭りが取り止めになった。しかし、残り2演目は昼食をとった後に我々が宿泊していた街に祭壇を移して行われた。

洋溪鎮

2007/8/30

地元の小学校校庭で行われた。祭りが始まる前に、すでに気温は高く、滝のように汗が流れた。祭壇は向かって左右中央に設けられている。左の祭壇には「韓信」の大型像、供物（豚の頭、米など）が置かれている。中央には八卦と日本では馴染みのない人物名、さらにその中央に「五岳殿」とされている魔方陣といえるものがある（表2，表3）。五岳とは中国道教の聖地である5つの山の総称である。つまり、道教の聖地をこの場所に模しているものと考えられる。

祭壇は舞台のよう場所に設置されているため一段高くなっており、ビニールシートでホロをかけられた簡易的なものである。儀礼の中心はこの祭壇で行われる。もう一

陽八門	陰八門	九州名	方位	担当するとされる人物名
坎	死	冀州	北	彭太郎
離	惊	揚州	南	楊二郎
震	杜	青州	東	木三郎
兌	休	梁州	西	郭四郎
乾	生	雍州	西北	許五郎
巽	伤	徐州	東南	徐六郎
坤	景	荊州	西南	陳七郎
艮	开	兗州	東北	謝八郎
五岳殿	玟	豫州	中央	林九郎

表2 九州八卦の旗（方位は後付け）

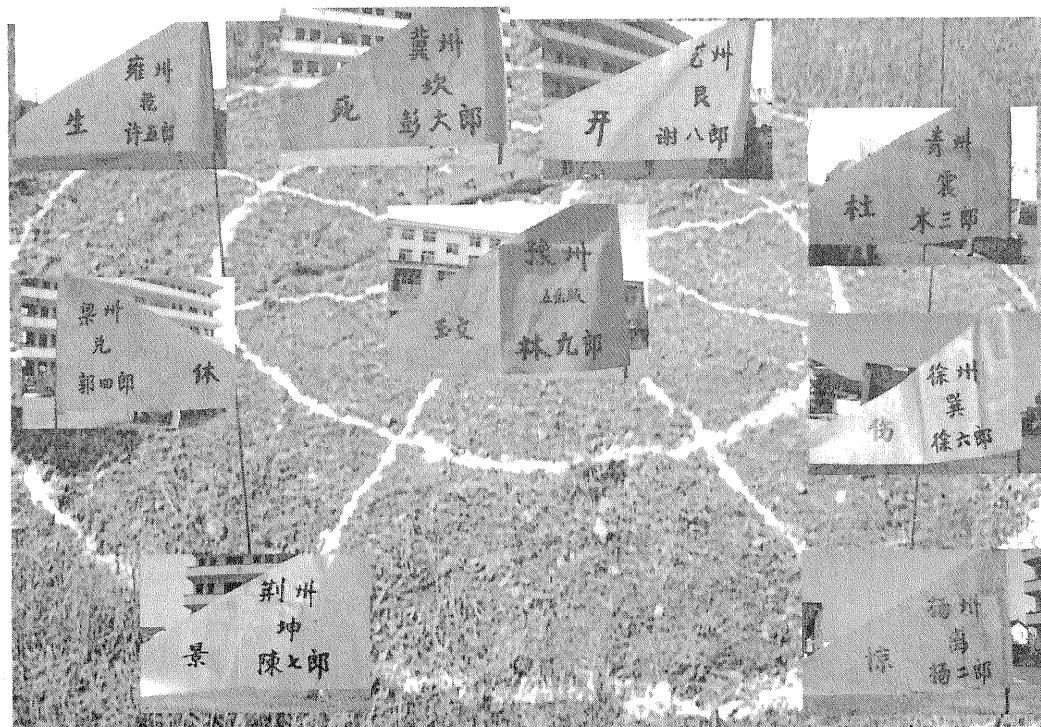


表3 九州八卦の旗

方の祭壇には大型の人形（韓信）の下に備えられている（写真20）。

韓信は中国秦末から前漢初期にかけての武将である。「韓信の股くぐり」という故事をもつ劉邦配下の三傑のひとりとされる。晩年、劉邦に冷遇されていた韓信は反乱を起こすも失敗し命を落とす。

この祭りは、悲運の武将である韓信がその荒らぶる力で人間に危害を加えぬように一日だけ冥界の王になれるために行うもの

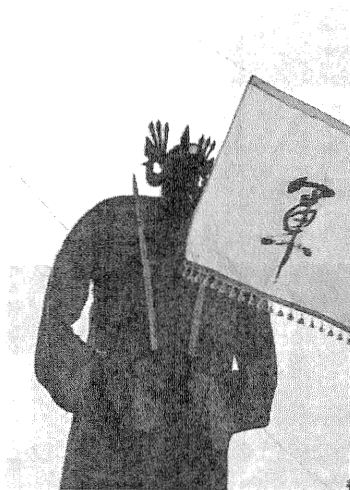


写真20 韓信

である。

これは明らかに虎なのだが、「猫」である。この悪さをする猫を韓信が狸神率いて退治するのだが、1度目では取り逃がしてしまう。しかし、宗教者の力によりパワーアップして、ついに猫を退治するのである。猫が退治される様子は猫を演じる人間と張りぼての猫の入れ変わりがあり、猫は退治される。この際に裏では生贅用の鶏が用意されており、この首を切り鮮血を張りぼての

である。

祭りは爆竹の轟音と共に始まった。やはりここでも宗教者によって祭壇の前で武術的な演舞が行われる。その他にも女形の宗教者による演目などは炎天下にもかかわらず行われた。

その他にも、獵師の動作を細やかに演じ、四方と中央を獵銃に模した杖で撃つ演目などが行われた。

ここで注目したいのが韓信の「猫退治」



写真21 祭壇の供物

猫に付ける。これにより儀礼的な意味で人形は人形ではなくなり、「猫」として宗教者の前に引き出されるのである。その後その人形の首を晒していた。

猫（マオ）はもともと音通の茅（マオ）で作られた人形に災いを付着させ祓い清めよとしたのではないかと（廣田2007：p3）。ここでの猫は災いの象徴とされているのである。

この「猫退治」で全ての演目が終了し、



写真22 四方と中央を撃つ



写真23 韓信の猫退治

最後は宗教者による占いが行われる。これは一段高い祭壇から宗教者が下にある大型の箕に2個の道具を投げ占うというものである。これは横から見ている我々一般人にはそれが吉凶なのかは判断できず、宗教者のみこれに判断を下せるのである。

時刻にして現地時間午後14時頃、未だに突き刺さるような陽射しの中、洋溪鎮での祭りが終了した。その後食事遅めの昼食になったのだが、この食卓に出て料理に、延々陽射しに焙られていた豚の頭が料理されてきた事は李利氏の報告を参照されたい。

維山郷

2007/8/31

農家の玄関先で行われたという表現が適切である。壁一面に幕が貼られ、そこには様々な神々が描かれている。代表的なもの

としては「北斗」と「南斗」であろう（写真24・25）。ここには家の内部に祭壇が置かれ、玄関口にも小さな祭壇が作られていた。この小さな祭壇で目についたのが「玉皇殿」という文字である。おそらく道教の最高神とされる玉皇上帝の事であろう。だが、この祭壇にも韓信が祭られていた。なぜ関羽ではなく韓信なのか意味があるのだろう。この祭りの場は、家の中で行われたため、非常に狭く、おまけに祭り見たさに来た人がおしかけ、身動きとれないような状態であった。

ここでは宗教者が独特のマジカルなステップ（罡歩）と手訣を用いて空を切り、冥銭を燃やす様が印象的である（写真26）。

ここでの儀礼は室内ばかりではなく外にも出てもおこなわれるという大変忙しいも



写真24 北斗



写真25 南宮



写真26 手訣をする宗教者

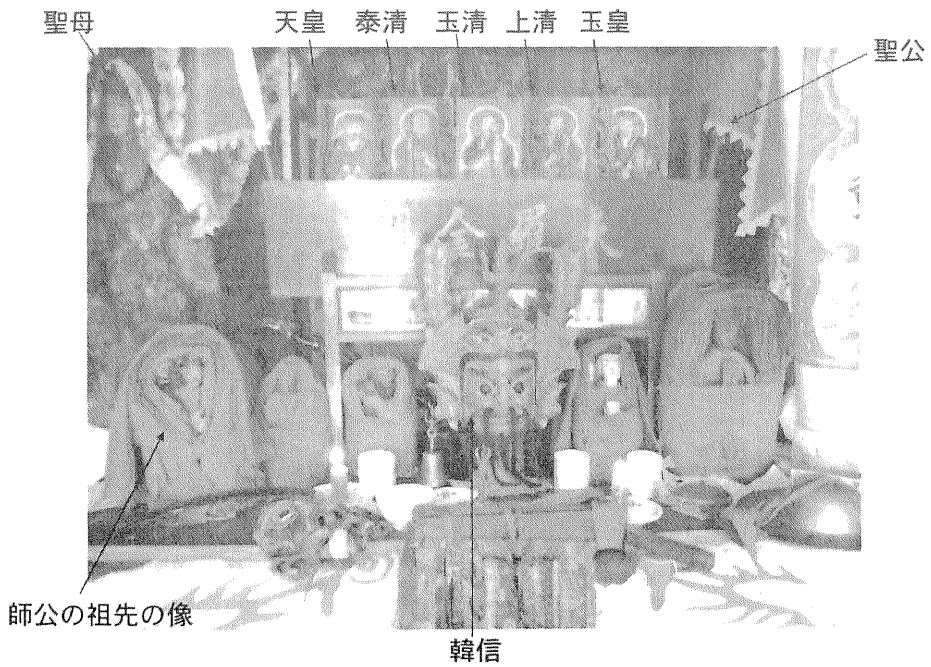


写真27 奥祭壇

のであった。おまけに見物人は時間と共に増えているようであり、室内の酸素がどんどん薄くなっているように感じられた。

やはり、このような祭りは男性の宗教者のみであり、当然のように女形が登場している。

この維山郷にも開山の演目があったのだが、ここの開山は言祝ぎを行うのではなく、竹を十字に組み、屈強な男4人がそれを担ぐ、その上で曲芸を行うものであった。室内で行っているため竹の上に開山が立つと天井に届くのではないかと思わせる。そこから一気に飛び降り、地面スレスレで竹に足を絡ませぶら下がるというものである。そのスリリングさから衆人からも歓声があがっていた。

この開山の演目で室内での儀礼は終了し、外へと移動する。家の下側にある田んぼの

畦道をぬけると河原に出る。そこには竹で八卦の陣が作られていた(写真28)。

宗教者たちの一団は、高らかに音楽を鳴らしながらこの陣の中を何度も歩いていた。その中には武術的な動きも行っていることが確認できた。

この後、宗教者による刀のハシゴ登りが行われた。宗教者はこの刀の刃を踏みながらハシゴを登ることによって自己の力を示す事ができるのである(写真29)。

この足をかけている刃は鋭いもので、登る前には試し切りも行われ、その鋭さは証明されるのである。

写真30では宗教者の背中に赤ん坊が負われているものである。この子は今回祭りが行われた宗教者の家の子である。この写真のように負わられてハシゴ登りを行うことでその力にあやかろうというのであろう。



写真28 九州八卦を巡る



写真29 ハシゴ登り



写真30 子供を背負う

5、民間信仰

地元において有名な女巫の家を訪問できたのは非常に貴重な体験であった。彼女は占う前に神籠に線香をあげ、礼拝して、机に頭を伏せて、暫くすると気分が悪くなり「オエッ」ともどすような音を発し、神がかったような状態になった後、頭を上げて、占いはじめる。その日（8月30日）祭祀演劇の中でも登場人物の娘々が同じような状態になり、神がかりを表現していた。このような民間の宗教者と祭祀の演目が行っている儀式に共通性がみられることに興味を魅かれた。

女巫は依頼者の「生辰八字」（生年月日時の干支）を把握したうえ、手相と面相を見ながら占う。ここで注目したいのが「生辰八字」の新旧暦である。中国においては「生辰八

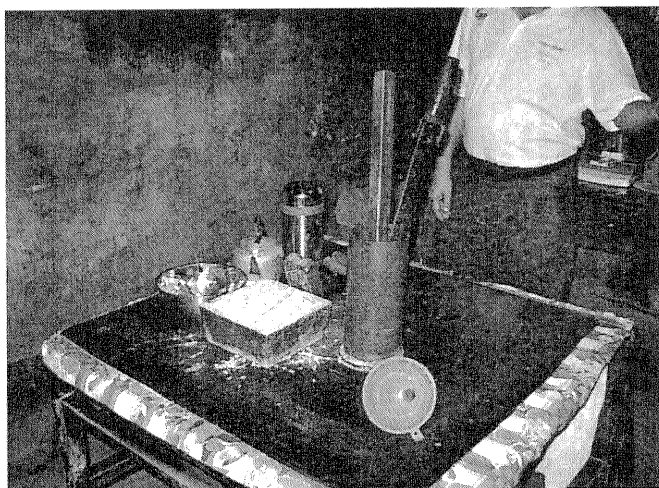


写真31 女巫の用具

字」例えば、農曆の生年月日ということだが、今回は新曆を教えたが、農曆に換算したかが確認できていない。もし換算しないまま占っていたのでは新曆と旧曆の間で誤差が生じてしまうからである。

女巫と二人の依頼者の話は以下の通りである。

Aさんについての話

女巫は、Aさんが子供の頃には、胸以上の部分が弱かったことをまず指摘した。Aさんは小さい時に喘息という病気があった。

「Aさんは学力を持っているよ、大学院に入れる。大学院の時代に結婚の相手と出会えるその人は優しい年上の方です。結婚したら、いい家庭を築けそうです。」 Aさんは女巫の話の聞いたら喜んでた。

Bさんについての話

女巫は、体の右側に痣があり、また家族の顔の特徴について話した。この家族の顔についてはBさんが驚くほど言い当てていた。

「Bさんは、一生に三回事故があるよ。水、交通などに関係のある事故だ。将来は記者になると、実力がうまく発揮される。」

Bさんは、確かに今まで、交通事故にあったことがあるが、来年の就職先は商社に内定している。今のところ記者になるつもりはないという。

おわりにかえて

以上が湖南省新化県での調査取材の報告である。今回の報告で述べた「食」「祭祀・



写真32 女巫宅の神龕

儀礼」について本文で全てを述べられるものではなく、あくまで報告という形であるため、比較から何を導こうとしたものではないが、比較民俗の対象となるべきものは無数に含まれている。この報告から発して中国の比較民俗へ興味を持ってもらいたいと考える。

謝辞：今回の調査及び報告を書くにあたっては、廣田律子先生にさまざまなご指導とご助言をいただいた。また、調査取材にご協力くださった湖南省文聯の張勁松先生、曾迪先生及び調査取材地の皆様へ感謝の意を表したい。

注

図1 <http://www.allchinainfo.com/profile/city/hunan.html>により作成するものである。

参考文献

松本浩一 『中国の呪術』 大修館書店

留学便り

比較への開眼

私は現在、中国浙江省杭州市にある浙江大学に大学院交換留学生として滞在している。留学期間は2007年9月から2008年8月までの一年間で、この留学で中国語の習得と自身の研究調査を行う予定である。

浙江大学に留学に来てから四ヶ月が経ち、現地に滞在することで知り得ることのできる人々の日常生活にみられる文化や風習を体験することができた。例えば、現地の人々がよく訪れるお店や食堂などで人々が交わす会話や行動を見聞きすることで、一般的な中国の人々の日常生活にみられる行動や考え方などを多少ではあるが知り、街を散策したり調査旅行に出かけることで、中国の交通事情やその仕組みを体験することができた。これらはテレビやインターネットなどでも紹介されていることではあるが、実際に現地に滞在して自身で体験し、また現地の人々と会話することで初めてそれらの意味を理解できるのではないかと思う。つまり、国によって文化や常識には違いがあり、それらを理解するためには自国の文化や常識に基づく視点だけで物事を見ることを改めることが必要だということである。このことが理解できたことは今回の留学におけるひとつの大きな成果である。

また、この四ヶ月間でたくさんの人々と交流することができた。例えばこの浙江大学で行われている日中交流会で知り合った日本語学科の学生たちや主催者の大学院生は中国国内でトップレベルの学生らしく常に目標を持って勉強している姿を見せてくれる。同じく日中交流会で知り合った近くの日本語学校の学生たちも、たった一年二

ヶ月という短い期間で一から日本語を学び最終的に日本語検定一級を取得するほど猛勉強をしている。その様子が伝わってきて、私を奮起させてくれる。彼らは日本語を勉強していることもあり日本の文化にとっても興味を持っているが、一般の中国人の学生も日本のアニメやドラマが好きでよく見ている。実際、去年の人気ドラマ調査で中国のテレビでは放送されていない日本の「のだめカンタービレ」が一位になったそうである。中国の若者は日本のアニメやドラマに関心を持ち、少なからず日本の文化に好意を寄せる契機になっている。日本の場合を考えると、残念ながら、マスコミやインターネットなどによる政治や経済関係の情報か、あるいは中国旅行の紹介というものが多数を占めているのが現状である。

異なる文化を持つ人々がお互いのことを理解し合うためには、相手の文化を知り、自分の文化を相手に伝えることがとても大切であると私は考えている。私の研究テーマは「空間にみられるさまざまな人間活動の事象からそこに関わる人々の民俗文化を研究し、その結果を用いて比較民俗研究をする」で、将来的にはひとつの研究方法論として確立させたい。異なる文化を持つ人々がお互いのことを理解し合うためのひとつのツールとして自身の研究を役立てたいというものである。今回の留學生活で体験しているさまざまなことや、知り合った多くの友人との交流は、私のこれからの研究において有意義なものになるであろう。

2008. 1.18.記 (高倉健一)